



2006年17号(通巻1132号)
発行: 筑波大学
編集: 総務・企画部
発行日: 平成18年10月4日

本号の内容

- ・ 学生生活指導関係教職員研修会の開催
- ・ 「イノベーション・ジャパン2006 大学見本市」の開催
- ・ 楠本祐一駐ウズベキスタン日本国特命全権大使が学長を表敬
- ・ 奥島真一郎講師がヤングリーダーズフォーラムサマースクール2006に参加
- ・ シンガポールで開催の「アジア青少年リーダーサミット」に参加
- ・ 「救命救急処置法」講習会の開催
- ・ 附属図書館ボランティアによる「おりがみ講習会」の開催
- ・ 「夏のつどい」開催
- ・ グアテマラ教育大臣が附属小学校を訪問
- ・ 附属学校児童生徒の作品展示コーナーの開設

お知らせ

-6
- ・ 筑波大学セーフティ・プロジェクト
- ・ 総合交流会館の暫定活用
- ・ 秋季スポーツ・デーに伴う交通規制
- ・ 歌舞伎鑑賞 参加者の募集
- ・ アスベスト対策工事の実施
- ・ 学内パトロールに参加するボランティア募集
- ・ 比較市民社会・国家・文化特別プロジェクトCSCワークショップ及びCSCセミナー・シンポジウムの開催
- ・ 健康・スポーツ科学研究の推進COEシンポジウム
- ・ 技術職員技術発表会発表者募集
- ・ 全学停電時における計算機・ネットワークシステムの運用休止
- ・ あなたのライフスタイルを見直してみませんか?
- ・ 屋内プールの一般公開(学生・職員対象)
- ・ 「モンゴル草原の水循環と環境変化」～陸域環境研究センターセミナーの開催
- ・ 初心者(新規)講習会「放射線業務従事者講習会」(第104回)の開催
- ・ 附属図書館臨時休館

各種表彰等 13

2006 17

iit cafe を開催 総合交流会館でカフェのひととき



知能機能システム専攻(大学院システム情報工学研究科)は、9月26日午後6時より、新たに建設された総合交流会館において、第一回iit cafeを開催しました。

iit cafeは、専攻広報活動の一環として第一線で活躍する先生とコーヒーを飲みながら、ざっくばらんに最新技術動向について議論し、交流を深める機会を提供しようとするものです。

第一回目は、ロボットスーツHALの開発者、山海嘉之教授に話題提供をいただきました。あいにくの雨にもかかわらず50名の参加者に恵まれ、テレビ番組「情熱大陸」の山海先生の特集ビデオ映像を交えながら、ロボットスーツHAL開発の最新状況や、ビジネス展開、今後の展望について紹介がありました。iit cafeでは、多岐にわたる活発な意見交換が行なわれ大盛況でした。次回は年明け頃に開催する予定です。

<http://www.iit.tsukuba.ac.jp/iitcafe/>

総合交流会館の使用については、本速報つくばの7頁をご覧ください。

学生生活指導関係教職員研修会
の開催

9月11日(月), 12日(火)に亘って, 花王霞ヶ浦研修所(美浦村)において, 研究科長, 学群長, 学類長, 学生生活支援室員, キャリア支援室員, 学生担当教員, 学生担当教員室員, 並びに学務部, 学生部, 各支援室の教職員72名が参加して, 学生生活指導関係教職員研修会が開催されました。「学群学類改組後の学生指導・支援について考える」をテーマに,

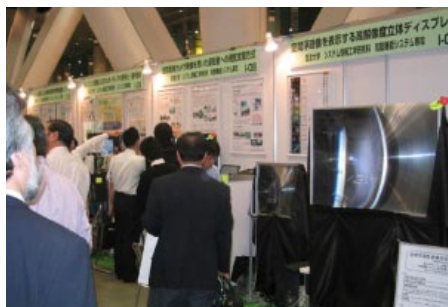


「学生生活支援における学生相談」「各学群・研究科における学生生活支援」「学生生活支援にむけた情報戦略・広報戦略」の3つの班に分かれて討議を行いました。討議の内容及び提言については、「ガイドンス」に報告としてまとめ, 11月頃に発行する予定です。

「イノベーション・ジャパン
2006大学見本市」の開催

9月13~15日の3日間, 東京国際フォーラム(千代田区有楽町)において, 「イノベーション・ジャパン2006大学見本市」が開催されました。このイベントは, 科学技術振興機構, 新エネルギー・産業技術総合開発機構が主催し, 文部科学省, 経済産業省などが共催するイベントで, 国内大学の最先端技術と産業界のマッチングを図ることを主な目的としており, 延べ約39,000人の来場者がありました。出展構成は「大学ゾーン」を柱に「TLOゾーン」, 「大学発ベンチャーゾーン」のほか, 大学発ベンチャー企業を支援する金融機関などによる「大学発ベンチャー支援ゾーン」や「研究機関ゾーン」により構成され, 日本の産学連携の新しい出展モデルの構築により, 技術移転, 新産業創造を加速的に推進しようとするものです。

本学からは, システム情報工学研究科からIT分野領域において, 寅市和男教授(フルーエンシ理論によるマルチメディアの符号化・復号技術), 加藤和彦教授(サステナブルシステム), 北川博之教授(ストリーム処理による実時間実世界情報基盤システム), 大田友一教授(道路監視カメラ映像を用いた運転者への視覚支援方式), 掛谷英紀講師(空間浮遊像を表示する高解像度立体ディスプレイ), また, 環境・エネルギー分野領域において, 笠原次郎講師(発電・航空用デトネーションエンジンの実用化に向けて)(掲載順不同)などの研究成果(6ブース)及び知的財産統括本部(1ブース)の計7ブースを出展しました。更に寅市教授は, 新技術説明会での報告も行い, 研究成果のアピールに積極的に努めました。開催期間中, それぞれのブースでは, 企業等からの来場者に技術移転などを図るべく, 研究成果の紹介が積極的に行われ, システム情報工学研究科の研究技術のレベルの高さをアピールすることができました。



左: 本学研究成果ブースの様子
右: テレビ東京「ワールドビジネスサテライト」の本学知的財産統括本部ブースへの取材風景

楠本祐一駐ウズベキスタン日本
国特命全権大使が学長を表敬

9月20日, 駐ウズベキスタン日本国特命全権大使の楠本祐一大使夫妻が, 岩崎洋一学長を表敬訪問しました。

この表敬訪問は, 本学が力を入れている中央アジア諸国の高等教育機関との学術交流に深いご理解と大きな期待を寄せられている楠本大使が地域研究研究科主催の公開講演会「グローバルゼーションの中の日本・ウズベキスタン関係」の講師として来学した機会に合わせて実現したものです。懇談の席上, 楠本大使より, 本学の中央アジア地域, 特にウズベキスタンにおける, 日本語教育・地域研究分野を中心と

した際立った学術・教育交流が日本にとって非常に有意義であるとの高い評価を賜りました。一方、岩崎学長からは、本学の概要や特色などの説明とともに、中央アジア地域を含めた本学らしい特色ある国際交流をさらに充実・発展させ、積極的に推進していく旨が伝えられました。この表敬訪問の場には、岩崎学長と楠本大使ご夫妻の他、辻中豊学長特別補佐、波多野澄雄人文社会科学部研究科長、小野澤正喜地域研究研究科長、臼山利信助教授（人文社会科学部研究科）、都築智国際課長、大津孝国際課長補佐が出席しました。

また、同日夕刻に文科系修士棟8A101教室で開催された楠本大使の講演会には、駐日ウズベキスタン特命全権大使であるオチロフ・ミソルビット大使や前駐ウズベキスタン日本国特命全権大使の小畑紘一氏（現在、地域研究研究科非常勤講師）らも駆けつけ、大学院生、学群・学類生、留学生、教職員を合わせて50人以上の参加者が聴講しました。

左：学長表敬の様子
岩崎学長（左）、楠本大使（中）、大使夫人（右）
右：講演会の様子
左から2番目がオチロフ駐日大使、3番目が楠本駐ウズベキスタン大使



奥島真一郎講師がヤングリーダーズフォーラムサマースクール2006に参加

8月27日から9月6日の日程で、ドイツにおいてヤングリーダーズフォーラムサマースクール2006（Young Leaders Forum Summer School 2006）が開催され、筑波大学から、システム情報工学研究科社会システム・マネジメント専攻の奥島真一郎講師が参加しました。当サマースクールは、日独両国の産官学25歳から35歳までの若手リーダーの交流による日独関係の深化を目的としたものであり、ベルリン日独センターとロバート・ボッシュ財団共催で、今年から開かれることになったものです。今回のサマースクールの内容は、ベルリン郊外の古城（Reichenow Castle）における「東アジア統合（East Asian Integration）」をテーマとした4日間の勉強会、ドイツ産業連盟（BDI）やシュトゥットガルト周辺の企業訪問、ストラスブールのEU議会見学や政治家との討論、といったものでした。今年、日本側の代表として、産業界から3人、ジャーナリスト1人、官界から1人、学界から3人の計8人が参加し、勉強会や議論、会食や自由時間等を通じてドイツ側参加者との活発な交流が行われました。

サマースクールが開催された古城（Reichenow Castle）



ドイツ産業連盟（BDI）やシュトゥットガルト周辺の企業訪問、ストラスブールのEU議会見学や政治家との討論、といったものでした。今年、日本側の代表として、産業界から3人、ジャーナリスト1人、官界から1人、学界から3人の計8人が参加し、勉強会や議論、会食や自由時間等を通じてドイツ側参加者との活発な交流が行われました。

シンガポールで開催の「アジア青少年リーダーサミット」に参加
- 附属高等学校 -

7月16日から29日までの2週間、シンガポールにおいてアジア青少年リーダーサミットが開かれ、附属高等学校から男3名女2名、合計5名の生徒が参加しました。アジア青少年リーダーサミットは、シンガポールのトップエリート校であるHWA CONG INSTITUTIONが企画し、アジアの将来の指導者となるべき若者を育てようという目的で開催されました。サウジアラビア・インド・中国・日本・マレーシア・シンガポール7カ国のトップ19高校が選ばれ、各校4～5名、合計80名の生徒が招かれました。日本からは附属高校の他、麻布高校、下関西高校の3校が参加。国

の違う高校生同士が同じ寄宿舎に寝泊まりし、英語を使っていろいろな課題や企画に取り組むというもの。開会式ではシンガポールの教育大臣が挨拶し、閉会式直前には大統領官邸で大統領とのパーティーも開かれました。その間、政府機関、大学、



ターマン教育大臣と会談する生徒

企業の訪問やそれぞれの要人との会談が用意され、文化や習慣の違う高校生同士の活発な意見交換、討論がなされました。それぞれの国の文化紹介もおこなわれるなど、内容の濃い交流を通して自分たちがアジアの一員であることを強く自覚しました。

「救命救急処置法」講習会の開催
- 体育センター -

9月6日、体育センターでは、共通科目「体育」と課外活動体育系部会に携わる教職員を対象に、救命救急処置法の一環として心肺蘇生法とAEDに関する講習会を開催しました。

昨年度に続き、今年度も稲垣裕美講師（日本ライフセービング協会理事、流通経済大学助手）を招いて、傷病者が意識障害、呼吸停止、心停止もしくはこれに近い状態に陥った場合に、直ちに気道を確保し、人工呼吸と心臓マッサージを必要に応じて行うことで、呼吸及び循環を補助し救命するための手当法を体験しました。さらに本センターでは、近年多くの施設で設置されつつあるAED（自動体外式除細動器）の重要性を踏まえ、この機器を利用した場合の処置法を体験する機会を設けました。



状態に陥った場合に、直ちに気道を確保し、人工呼吸と心臓マッサージを必要に応じて行うことで、呼吸及び循環を補助し救命するための手当法を体験しました。さらに本センターでは、近年多くの施設で設置されつつあるAED（自動体外式除細動器）の重要性を踏まえ、この機器を利用した場合の処置法を体験する機会を設けました。

附属図書館ボランティアによる「おりがみ講習会」の開催

附属図書館ボランティアによる留学生対象の「おりがみ講習会」が9月27日、15名の参加により中央図書館で開催されました。この講習会は、日本文化紹介として附属図書館ボランティアが年2回程度留学生を対象に行なっているものです。今回のテーマは、「カワサキローズ」という初心者にはかなり難しい作品でしたが、参加者が楽しそうに取り組む姿が見られました。次回は、2月頃開催する予定です。



「夏のつどい」開催
- 附属盲学校 -

8月28～29日、附属盲学校幼小学部では、通常の小学校等に在籍している視覚に障害のある児童や教育相談児童等を対象に、「夏のつどい」を開催しました。

参加者は関東近県を中心とした10名、うち、7名は、寄宿舎を利用したの宿泊体験を行いました。図形や立体、理科実験、調理、運動などの活動を行いました。参加

児童からは、「ドライアイスを使って、アイスクリームが作れるとは思わなかった」、「同じ立体でもいろいろな展開図があっておもしろかった」、「普段の通級の時間にはあまり話したことのない友だちと泊まって、たくさん話せたことが楽しかった」などの感想に表れているように、活動への満足感と共に、同じ障害のある友だちとの交流を楽しんだことも印象的だったようです。在籍児童の指導のみではなく、通常の小学校等に在籍している視覚に障害のある児童や教育相談児童を対象にして、視覚障害に配慮した触ってわかる教材や実体験を大切に、長期休業中に設定している夏のつどい・ウインタースクールも今年度で6年目を迎え、附属盲学校幼小学部では「特別支援教育」への転換の中で、障害児学校が果たすべきセンター的機能の充実をより一層図っていきたいと考えています。



グアテマラ教育大臣が附属小学校を訪問

9月15日、Maria del Carmen Acena de Fuentesグアテマラ教育大臣がArturo Duarte駐日大使と附属小学校(田中統治校長)を訪問しました。世界の算数授業改善に協力してきた附属小学校算数部教員から、附属小学校が進める教員研修事業の解説を受けるとともに、同国の算数指導力向上プロジェクト「グアテマティカ」に関わる教員研修への協力を依頼されました。

左：児童とグアテマラ大使館広報写真を撮るグアテマラ教育大臣
右：坪田耕三副校長(右)による模擬授業を受けるグアテマラ教育大臣(左)



附属学校児童生徒の作品展コーナーの開設

附属学校教育局では、附属学校の日ごろの教育の成果を紹介するために、児童生徒が授業で制作した作品を展示するコーナーを設けました。場所は、東京キャンパスE館の1階廊下です。写真は、附属小学校1年生の作品です。上段が入学して最初の図工の授業で描いた「ぼくのすきなもの、わたしのすきなもの」、下段が第1学期最後の授業でつくった折り紙の貼り絵です。今後は、順次、各校の児童生徒の作品を展示していく予定です。東京キャンパスにお立ち寄りの際には、是非ご覧ください。



筑波大学セーフティ・プロジェクト
- 総務・企画部総務課 -

キャンパス及び周辺地域における学生及び教職員の安全を確保するため、関係部局、部課（室）等が行う防犯対策を総合的に支援、促進することを目的として、筑波大学セーフティ・プロジェクトを設置しています。このセーフティ・プロジェクトは、平成16年度から活動を開始しており、テーマ別にタスク・フォースを設置し、活動成果については報告書として取りまとめを行い学内に公表（筑波大学HPスタッフオンリー）しています。

平成18年度は、次のとおりタスク・フォースを設置し、活動していくこととしており、合せて活動に参加いただける方の募集を行っていますので、各タスク・フォースの連絡先までお問い合わせください。ふるって御参加くださるようお願いいたします。

タスク・フォースの名称・活動内容	連絡先
広報・情報共有 - 安全等に関する広報・危険情報等の共有 - 1 ハザード・マップを更新し学内に公表する。 2 全学的に安全キャンペーン週間を設ける。 3 HP等に防犯対策に関する記事を掲載する。 4 セーフティ・プロジェクト活動状況の記事をマスコミに提供する。 5 危険情報の収集と学生等への迅速な伝達システムを確立する。	総務・企画部広報課 sk.kohoka@sec.tsukuba.ac.jp Tel 2063 Fax 2014
建物内防犯対策 - 建物内の防犯対策 - 1 事件・事故の発生場所の調査及び現場確認を行う。 2 既存建物への入室管理システムの導入についての検討を行う。	財務部資産管理課 zai.sisankanrika@sec.tsukuba.ac.jp Tel 2185 Fax 2146
交通安全 - 交通安全のための交通ルールの遵守等 - 1 交通ルールやマナーについての交通安全指導を行う。 2 障害学生支援委員会との連携による障害学生に対する支援を行う。 3 バス停留所の機能向上、交通安全のための表示（案内標識）の見直し。 4 交通安全のため、他のタスク・フォースと連携を強化する。	総務・企画部総務課 safety@sec.tsukuba.ac.jp Tel 2025 Fax 6019
学内パトロール - 学内パトロールの実施と危険箇所の把握等 - 1 ボランティアを募集するとともに、月1～2回程度の学内パトロールを実施する。 2 他のタスク・フォースと連携し、安全のためのキャンペーンを実施する。	人文社会科学等支援室総務係 sien.jinsyass@sec.tsukuba.ac.jp Tel 4019 Fax 6315
地域連携 - 地域との安全確保等に関する連携 - 1 地元防犯自警団連絡協議会の協力の下に学生の防犯、安全意識の向上のための講演会等を行う。 2 地元防犯自警団連絡協議会と連携し、本学周辺地区の防犯パトロールや注意喚起のためのキャンペーンを実施する。	学生部学生生活課 gk.gska@sec.tsukuba.ac.jp Tel 2224 Fax 6015

総合交流会館の暫定利活用

総合交流会館は、本年7月末に竣功し、朝永振一郎博士生誕100年記念の特別展示を開催するなどその利用を開始したところですが、現在、この総合交流会館を軸とした大学会館エリアを本学の交流、情報発信の中心として本年度末を目途に整備することとしております。それまでの間の総合交流会館の利用につきましては、現行の大学会館の利用と同様に学内外の関係者において広く利用いただきたいと考えております。特に多目的ホールは、展示、発表のほか、立食パーティなど様々な用途に広くご利用いただけます。

当該施設の利用を希望される場合、Web Officeに利活用についてのご案内をしておりますので、ご参照ください。

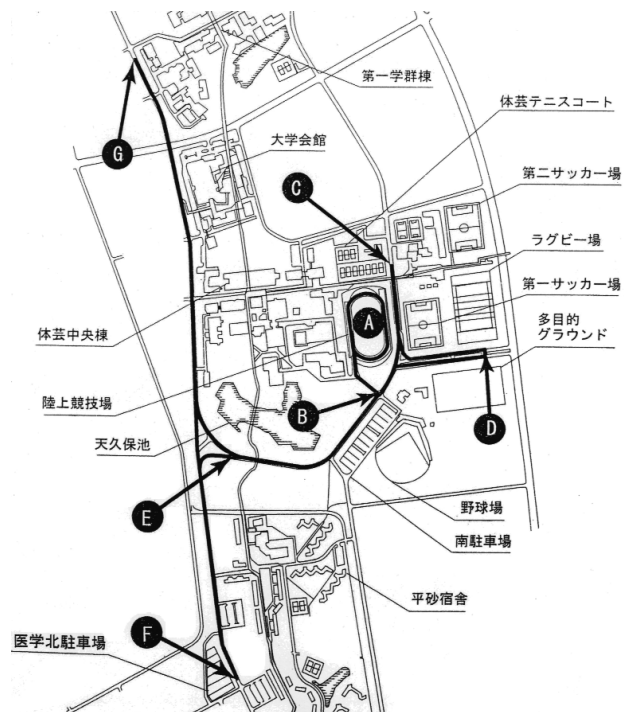
秋季スポーツ・デーに伴う交通規制 - 学生部学生生活課 -

秋季スポーツ・デーが、10月21日(土)、22日(日)に開催されます。開催期間中に会場周辺(陸上競技場等)を自動車等で通行する場合は、徐行運転を励行し、ループ道路内の路上駐車は厳に慎むようお願いします。

なお、22日(日)に行われる駅伝競技開催中(12:30~16:00)は、事故防止のため学内道路のうち駅伝コースとなっている区間(次表・図(太線部)を参照)において一般車両は通行止めとしますのでご協力ください。

問合せ：学生部学生生活課課外教育(TEL.2247,2248)

男子の部			女子の部			ミニの部		
区	コース順	Km	区	コース順	Km	区	コース順	Km
1	ABCD BEFG EBA	5.47	1	ABEFG EBA	4.48	1	ABEFG EBA	4.48
2	ABEFG EBA	4.48	2	ABCD BEBA	2.53	2	ABCD BEBA	2.53
3	ABCD BEBA	2.53	3	ABCD BEBA	2.53	3	ABEFG EBA	4.88
4	ABEFG EBA	4.48	4	ABEFG EBA	4.88			
5	ABCD BEFG EBA	5.87						



歌舞伎鑑賞 参加者の募集

職員レクリエーション行事の一環として、「歌舞伎鑑賞」を次のとおり実施しますので、是非ご参加下さい。

日 時：11月11日(土) 12時開演

場 所：国立劇場

演 目：国立劇場開場40周年記念 元禄忠臣蔵 第二部

募 集 数：150名(1等A席)

対象者：筑波キャンパスの職員（非常勤職員を含む）及びその家族
個人負担金：職員 3,000円、被扶養者（2名まで）3,500円
上記以外の家族 5,000円

被扶養者とは、共済組合員証に記載された家族です。

申込み：10月12日（木）までに所定の申込書に必要事項を記入の上、申込んでください。なお、申込者が多数の場合は、抽選により決定します。
前売り券を購入しますので、参加の辞退は出来ません。

問合せ：人事課福利厚生室福祉第一係（2097,2098）

アスベスト対策工事の実施

校舎のアスベスト対策工事については8月下旬より本格的に着工し、年度内完了を目指して工事中です。建物利用者各位には、ご不便やご迷惑をおかけしていますが安全な教育研究環境確保のために必要な工事であり、ご理解とご協力をお願いいたします。アスベスト対策工事に当たっては、関係法令を遵守し、安全確保に万全を期しているところであります。工事の具体的な方法や安全管理については、これまでも説明会等でお知らせしてきたところですが、不明な点や疑問等があれば施設部ホームページをご覧になるか、下記の相談窓口にご連絡下さい。

施設部ホームページ：

<http://www.sakura.cc.tsukuba.ac.jp/~shisetsu/index.html>

建物のアスベストに関する相談窓口：施設部施設企画課 神，神矢，荏柄

TEL.029-853-2272,2273,2274 FAX.029-853-6304

学内パトロールに参加するボランティア募集 ~キャンパスを一緒に守りましょう~

「セーフティプロジェクト」の一環として、学内の安全と安心な学園生活を維持するために学内パトロールを実施してきました。この学内パトロールを今年度も行います。キャンパス内をパトロールするボランティアとして参加下さるよう、ご協力をお願いします。

実施の時期、回数等：今年10月から来年3月まで、月あたり1~2回程度です。17時30分以降の時間帯で1時間程度とし、次の3班（一班5人以上）に分かれて巡回します。

大学中央地区から一の矢学生宿舎間 体芸地区から平砂・追越学生宿舎間
春日キャンパス内

ボランティア募集：ボランティアは登録制です。登録いただいた方に実施日時等を電子メールなどで連絡します。教職員でボランティアに登録していただける方は、人文社会科学等支援室まで、所属、氏名、メールアドレスまたは電話番号をお知らせください。

人文社会科学等支援室総務係 TEL.4019

e-mail：sien.jinsyass@sec.tsukuba.ac.jp

なお、連絡先等の個人情報、学内パトロールの実施連絡に使用し、それ以外の目的で利用することはありません。

問合せ：学内パトロール世話人等 人間総合科学研究科：足立和隆 TEL.2682
人文社会科学等支援室：五百川和幸 TEL.3989
人文社会科学等支援室：総務係 TEL.4019

比較市民社会・国家・文化特別プロジェクトCSCワークショップ及びCSCセミナー・シンポジウムの開催



比較市民社会・国家・文化特別プロジェクト
CSCセミナー・シリーズ

<http://www.csc.tsukuba.ac.jp>

E-mail: csc@social.tsukuba.ac.jp

比較市民社会・国家・文化特別プロジェクトでは次のワークショップを開催します。皆様の参加をお待ちしております。

・連続ワークショップ「メディウムと幻視される共同体」

日時：10月5日、12日、19日、26日(毎週木曜日) 12：00～13：30

場所：開学記念館

講師・講演者：今井紀彰氏，中津川浩章氏

概要：「アートと共同性」というテーマをめぐって、連続したワークショップとシンポジウムを開催いたします。写真家と画家という二人のアーティスト

をお招きし、ワークショップの参加者と共に写真やドローイングを解して作品/共空間を組み上げます。作品は展示という形で公開され共空間はシンポジウムで議論の場というさらに新たな意味を与えられます。この一連の作業を経て、ありうるのは、作品と共空間、そしてそれらを自分が作ったという事実だけです。

比較市民社会・国家・文化特別プロジェクトでは次のセミナー・シンポジウムを開催します。皆様の参加をお待ちしております。

・第59回CSCセミナーシリーズ

日 時：10月18日（水）13:00～15:00

場 所：第三学群A棟204教室

講演者：小倉孝保氏（毎日新聞外信部記者）

演 題：中東情勢の今を読む

概 要：アメリカによるイラク占領，イランによる核開発疑惑，イスラエル・ヒズボラの紛争，原油高による石油危機の懸念など，中東を巡る問題は世界に大きな衝撃を与えています。今，中東で何が起きているのか，毎日新聞外信部の記者で，2000年から4年半にわたってカイロ支局で中東問題を扱ってきた小倉孝保さんを講師に招いて，激動する中東情勢の現在を解説してもらいます。

・シンポジウム「新自由主義とフランス現代思想」

日 時：11月1日（水）14:00～17:00

場 所：総合研究棟B112

講演者：佐藤淳二氏（北海道大学）佐藤吉幸氏，廣瀬浩司氏（筑波大学）

概 要：60年代から70年代のフランス現代思想は「ポスト・モダン思想」と呼ばれ，「啓蒙」の伝統や，「政治参加」の思想から距離を取るものであるかに思われています。そうした観点からすれば，90年代以降のデリダの政治への「回帰」，フーコーの「生の権力」やドゥルーズ・ガタリに想を得たアガンベン，ネグリらの思想は，唐突な政治回帰とも思われるかもしれませんが。彼らの思想展開は「新自由主義」と呼ばれる現代社会にどのような光を投げかけるのか。18世紀以来「現代性」の概念と結びついていた「市民社会」の概念は，現代の技術社会においてどのような運命を辿るのか。本シンポジウムでは，こうした問題に取り組むため，ルソーの厳密な解読者でありつつその「現代性」の意義を探る研究者と，実存主義から構造主義以降に至るフランス思想の専門家が顔をそろえ，広い射程から「現代思想」の意義を再考するとともに，現代社会における「市民社会」概念の有効性を探ります。

共催：独立行政法人日本学術振興会「人文・社会科学振興のためのプロジェクト研究事業」（多元的共生社会に向けた知の再編）「多元的共生に関する国際比較」

新たな身体運動科学の創生～健康・スポーツ科学研究の推進
COEシンポジウム～

日時：10月29日（日）9:15～17:30

場所：ニッショーホール（東京都港区虎ノ門2-9-16）

主催：文部科学省21世紀COEプログラム「健康・スポーツ科学研究の推進」

筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科

体育科学専攻・スポーツ医学専攻

プログラム：

9:15-9:30 開催の挨拶

人間総合科学研究科長 高松 薫

拠点リーダー・人間総合科学研究科教授 西平賀昭

9:30-11:00 人間力活性化？子供から高齢者までの運動プログラムの開発？

麻見直美，江崎和希，紙上敬太，坂井智明，引原有輝

11:00-12:00 招待者講演

Physical Activity and Cognitive Control Across the Lifespan Dr. Charles H. Hillman (University of Illinois at Urbana-Champaign)

司会 人間総合科学研究科教授 田中喜代次

12:00-13:15 昼休み (ポスター展示)

13:15-14:45 新しいスポーツパフォーマンスの向上法を目指して

阿江通良, 谷川 聡, 野村武男, 宮下 憲

15:00-16:30 生活習慣病の改善を目指した運動療法の開発~テラーメイド減量プログラムの確立に向けて~

中田由夫, 沼尾成晴, 曾根博仁, 黄 虎

16:30-17:30 ポスタープレゼンテーション, 討論

健康・スポーツ科学研究の推進COE公募研究協力教員, 若手研究者 (COE研究員, Research Assistant) による最新の研究進捗状況を, ポスターを使って解説, 討論 西島 壮, 林 恵嗣, 中川 昭, 内山治樹, 武田 剛, 大蔵倫博, 田辺 解, 林 容市, 藪下典子, 朱 美賢

詳細情報: <http://www.taiiku.tsukuba.ac.jp/coe/index.html>

問 合 せ: E-mail: coe_symp@taiiku.tsukuba.ac.jp Tel & Fax.2769

技術職員技術発表会発表者募集

第6回筑波大学技術職員技術発表会の開催を予定しています。次により発表者の募集を行っておりますので、多くの技術職員の方々の応募をお待ちしております。

主 催: 筑波大学技術職員技術発表会実行委員会

実行委員長: 瀧田宏樹副学長

開催日時: 平成19年3月14日 (水) 9:00 ~ 17:00

開催場所: 医学図書館・臨床講堂

プログラム(予定):

開会挨拶 (瀧田宏樹副学長), 特別講演 (未定), 口頭発表, ポスター発表等

発表者: 本学技術職員 (準研究員を除く)

参加者: 本学及び関係教育・研究機関の教職員

発表内容: 日常教育研究支援業務の紹介, 業務遂行の中で行った創意工夫や成果, エピソードなど

発表形式:

- ・口頭発表 プレゼンテーション: 15分, ディスカッション: 5分

当日は, 主催者側で液晶プロジェクター, パソコン, OHPを準備します。また, 発表の申込みが多数の場合には, 発表時間を短縮させていただくか, ポスター発表に変更させていただく場合もあります。

- ・ポスター発表 ポスター形式 (貼り付けたポスターを用いて発表者が参加者に説明) による発表。

詳細については, 後日, 発表者に連絡いたします。

申込み方法:

- ・申込みは, オンライン申込みフォームをご利用いただくか, 「発表申込書」(第6回技術発表会ホームページ <http://www.tech.tsukuba.ac.jp/2006/> からダウンロード可) により, 学内便, F A X, E-mail等で申込みください。

- ・申込み先 (送付先) 学内便: 生命科学動物資源センター 稲月一高宛

FAX: 029-853-3382 稲月一高宛 E-mail: 2006@tech.tsukuba.ac.jp

- ・申込み締切日 11月24日 (金) 必着

- ・予稿集・報告書等 予稿集と報告書の作成をお願いします。

予稿集・報告書ともに原稿作成用テンプレートがあります。

詳細については, 後日, 発表者に連絡をいたします。

- ・予稿集原稿の締切日: 12月15日 (金)

- ・報告書原稿の締切日: 1月26日 (金)

・本発表会に関する問合せ先：生命科学動物資源センター 稲月（内線3382）
E-mail inaruna@md.tsukuba.ac.jp

全学停電時における計算機・ネットワークシステムの運用休止

10月14日（土）、15日（日）に実施される全学停電のため、次のとおり計算機・ネットワークシステムの運用を休止しますのでご協力願います。

筑波地区基幹ネットワークシステム

10月14日（土）、15日（日）とも7：00～18：00

注1）一部のネットワーク機器については停止せずに運用します。

詳しくはホームページを参照ください。

注2）アクセスポイント接続サービス（ワイヤレスメッシュも含む）も次の日時にサービスを停止します。

10月13日（金）18：30～16日（月）8：40

なお、宿舍の停電に伴い宿舍のワイヤレスメッシュネットワークも次の日時にサービスを停止します。

平砂・追越宿舍地区 10月12日（木）9：00～17：00

一の矢宿舍地区 10月13日（金）9：00～17：00

教育用計算機（icho）

10月14日（土）7：00～15日（日）18：00

注）上記期間、端末が利用できない他、メール、Web等、教育用計算機システムのすべてのサービスが停止します。

e-Learningシステム（WebCT）

10月13日（金）17：00～16日（月）9：30

クラスタ計算機（kaede, kaede-b）

10月13日（金）19：00～16日（月）9：00

注）13日19時時点での実行中のJOBは全て削除されます。

スーパーコンピュータ（mimosa）

10月13日（金）19：00～16日（月）9：00

注）ジョブ凍結を実施します。

汎用サーバ（sakura）および汎用レンタルサーバは、停電期間中も外部電源により通常どおり運用します。

あなたのライフスタイルを見直してみませんか？

- 体育センター -

体育センターでは、職員を対象とした「体力測定」を次の通り実施いたします。職場の同僚とお誘い合わせのうえ、ふるってご参加ください。

日 時：<体力測定> 10月26日（木）、27日（金）17：00～18：30

<トレーニング指導> 10月28日（土）10：00～12：00

場 所：体育総合実験棟（SPEC）

申込方法：希望する日の2日前までに、体育センター技官室（内線2874）に電話で申込みをしてください。

内 容：（1）体脂肪率の測定（着衣のまま測定します）

（2）筋力、持久力、柔軟性などの測定（総合的な体力の診断）

（3）Biodex（等速性筋力測定機）による膝屈伸力、腹背筋力の測定。

（4）以上の結果と、あなたの年齢、生活状況などを考慮して、体育科学系教員がカウンセリングを行います。詳しくは当日担当教員にご相談下さい。

所要時間は、約1時間です。なお当日は、上履きを持参のうえ運動できる服装でお越しください。

屋内プールの一般公開（学生・職員対象）

下記の日時にプールを公開します。ただし、都合により中止する場合があります。中止の場合は、プール入り口に掲示します。なお、水泳キャップを被っていない方の利用は出来ません。入場の際は、必ずプール使用申込書に必要事項を記入してください。

期 日：10月 (月) (水) (金)
 11日 13日
 16日 18日 20日
 23日 25日 27日
 30日

時 間：17:00～18:25 問合せ：体育センター TEL.2881

「モンゴル草原の水循環と環境変化」～陸域環境研究センターセミナーの開催

生命環境科学研究科および陸域環境研究センター所属の教員，院生が中心となりモンゴル大草原を舞台に進めてきたJST・CREST事業による「北東アジア植生変遷域の水循環と生物・大気圏の相互作用の解明」プロジェクト（代表 杉田倫明教授）の成果報告会を開催します。学内外に公開しますので，興味のある方の参加をお待ちしています。

日 時：10月12日（木）8:30-12:00
 場 所：総合研究棟A110（公開講義室）

プログラム：

- 8:30- 8:50 杉田倫明「北東アジア植生変遷域：水循環研究の重要性と研究戦略」
- 8:50- 9:25 浅沼 順「モンゴル・ヘルレン川流域における地表面熱・水収支」
- 9:25-10:00 鞠子 茂「モンゴル・ヘルレン川流域における植生 土壌・炭素収支」
- 10:15-10:50 辻村真貴「マルチ・トレーサー手法によるモンゴル・ヘルレン川流域における水・物質循環プロセス研究の成果」
- 10:50-11:25 木村富士男「モンゴルの降水と気温の変動予測」
- 11:25-12:00 陸 旻皎「ヘルレン流域の水収支と温暖化の影響」

初心者（新規）講習会「放射線業務従事者講習会」（第104回）の開催
 - アイソトープ総合センター -

新たに放射線を取り扱う予定の職員・学生等に対する法定の講習（教育・訓練）を次のとおり行います。なお，学生には掲示をしますが，指導教員におかれましても研究等を予定している学生に対し周知方お願いします。

日 時：11月 8日（水）9:00～14:50 講義
 15:00～受付開始 特別健康診断
 11月10日（金）8:40～17:00 実習
 実習は，午前又は午後の半日となります。

場 所：講義 アイソトープ総合センター講義室
 特別健康診断 保健管理センター
 実習 アイソトープ総合センター実習室

定 員：80名（先着順締切）

申込み：10月30日（月）～11月2日（木）までに，アイソトープ総合センター事務室に受講者本人が直接申込んでください。

申込み用紙はアイソトープ総合センター事務室にあります。

附属図書館臨時休館

附属図書館は，停電のため，中央，体育・芸術，医学の各図書館において，下記のとおり臨時休館します。それに伴い，10月13日（金）は貸出終了時間が早くなりますのでご注意下さい。また，10月13日（金）19時～16日（月）9時の間，図書館のホームページにアクセスができなくなり，蔵書検索システム，電子ジャーナル等が全て使用できません。利用者の皆様にはご迷惑をおかけしますが，ご協力をお願いいたします。

中央・体芸・医学図書館

10月13日（金）	10月14日（土）～15日（日）
閉館時間：22時	休 館
貸出終了時間：19時	

図情・大塚図書館

10月13日（金）～15日（日）：通常どおり開館

各種表彰等

システム情報工学研究科博士後期課程1年次の平林丈嗣氏、矢野博明助教授、岩田洋夫教授が、第23回国際建設ロボットシンポジウム優秀論文賞を受賞

システム情報工学研究科博士後期課程1年次の平林丈嗣氏(知能機能システム専攻)、矢野博明助教授(同専攻)、岩田洋夫教授(同専攻)、他1名による共著論文"Experiment on Teleoperation of Underwater Backhoe with Haptic Information"が、第23回国際建設ロボットシンポジウム優秀論文賞を受賞しました。本論文は、筑波大学、独立行政法人港湾空港技術研究所、佐伯建設工業株式会社による共同研究の成果で、無人の水中バックホウ(パワーショベル)を遠隔操作するシステムが開発されました。水中作業を行うと泥がまき上がり、視界が利かなくなる問題がありましたが、バックホウに力センサーを付け、その信号を力覚呈示装置を通じて操作者に知覚させることによって、手探りで作業を行うことを実現しました。操作者には、手探りで得た海底地形を可視化した画像も表示されます。本研究を中心的に進めた平林氏は、(独)港湾空港技術研究所に在職しており、社会人特別選抜でシステム情報工学研究科に入学しました。



左：無人水中バックホウ
右：力覚呈示装置



左：平林丈嗣氏
中：矢野博明助教授
右：岩田洋夫教授

遠藤靖典助教授がMarquis Who's Who in the World (24th Edition, 2007)に掲載される



遠藤靖典助教授(システム情報工学研究科、リスク工学専攻)は、Marquis Who's Who in the World (24th Edition, 2007)に掲載されることが決まりました。遠藤助教授は、ソフトコンピューティングの分野で研究活動をしています。今回の掲載は、特に不確実システムの変動解析やクラスタリングアルゴリズムの開発における研究が評価されたものです。

青柳秀紀助教授、田中秀夫名誉教授が日本生物工学会論文賞を受賞

青柳秀紀助教授(生命環境科学研究科)、田中秀夫名誉教授は、共著論文(Development of novel system for producing ajmalicine and serpentine using direct culture of leaves in *Catharanthus roseus* intact plant. *J. Biosci. Bioeng.*, Vol.99, No.3, 208~215, 2005)により2006年度日本生物工学会論文賞を受賞しました(授賞式は9月12日の日本生物工学会大会で行われました)。本賞は日本生物工学会(会員数4050名)が2005年に発行した学会誌(*J. Biosci. Bioeng*または生物工学誌)に掲載された論文の中から生物工学の進歩に顕著に寄与した論文に与えられるものです(本年は約220報の中から5件の論文賞が授与された)。カルス(植物培養細胞)による有用物



青柳秀紀助教授

質生産は約60年間に渡り世界中で研究されてきたが、“脱分化”したカルスは有用物質の生産能が不安定なため、実用化に至ったものはわずか数例しかない。本報はこの歴史的背景を踏まえ、カルス化を経ずに“分化”した植物の組織を直接、ホルモン無添加の液体培地で培養する新規な有用物質生産システムを開発し、有用な薬用成分を効率的かつ高濃度に生産できる事を世界に先駆けて見出した論文である。本研究の独創性および実用性が高く評価され、工業化に向けた世界の生物化学工学研究をリードしてきた本学会の論文賞が授与されました。

松本功講師がWho's Who in Asia (2006-2007) に掲載される

松本功講師（人間総合科学研究科，先端応用医学専攻 臨床免疫分野）はMARQUIS版Who's Who in Asia に掲載されました。松本講師はすでにWho's Who in Medicine and Healthcare (2006-2007) に掲載されており，関節リウマチなど自己免疫疾患での病態解明，診療応用における研究成果が高く評価されての2部門での掲載となりました。

寺西利治教授指導の数理物質科学研究科1年猿山雅亮氏が第59回コロイドおよび界面化学討論会においてポスター賞を受賞

寺西利治教授（数理物質科学研究科）指導の数理物質科学研究科1年猿山雅亮氏（化学専攻）は，第59回コロイドおよび界面化学討論会（9月13～15日：於北海道



大学高等教育機能開発総合センター）において，題目「異方性相分離硫化CoPdナノ粒子の合成とキャラクタリゼーション」により，ポスター賞を受賞しました。この賞は，ポスター発表のうち，35歳以下の若手研究者の中で選考を希望したものが審査の対象となります。審査対象となる125件（全ポスター201件）の中から13名が受賞したもので，猿山氏はそのうちの1名です。

小島誠治教授指導の数理物質科学研究科博士前期課程2年塚田真也氏が第5回アジア強誘電体会議でポスター賞を受賞



小島誠治教授（数理物質科学研究科）指導の塚田真也氏（物性・分子工学専攻）は，第5回アジア強誘電体会議（IEEE，日本物理学会，応用物理学会，日本MRS，日本セラミクス協会共催：9月3～7日，東京理科大学野田キャンパス）で“Raman Scattering Study of Ca Modified Lead Titanate”と題するポスター発表を行い，35歳以下の若手による優秀な研究と認められて今回の受賞となりました。

鬼沢武久教授指導のシステム情報工学研究科博士後期課程2年の赤坂優太氏が2006年度日本知能情報ファジィ学会奨励賞を受賞

鬼沢武久教授(システム情報工学研究科)指導のシステム情報工学研究科知能機能システム専攻博士後期課程2年の赤坂優太氏が2006年度日本知能情報ファジィ学会奨励賞を受賞しました。この賞は知能・情報・ファジィ



とその周辺分野における理論・応用において若手研究者の研究を奨励するために授与されるものです。同氏が昨年の第21回ファジィシステムシンポジウムで発表した論文「ファジィ測度・積分によって個人の好みを反映した歩行者ナビゲーション」に対して授与されたもので，研究内容をはじめ，発表態度，質疑応答の態度などを総合的に評価されての受賞です。表彰式は9月7日に北海学園大学で開催されました第22回ファジィシステムシンポジウムで行なわれました。

安信誠二教授指導のシステム情報工学研究科博士後期課程1年周生浩氏及び陳有根氏が、SCIS&ISIS2006にてSession Best Presentation Awardを受賞

安信誠二教授（システム情報工学研究科，知能機能システム専攻）指導のシステム情報工学研究科博士後期課程1年周生浩氏及び陳有根氏が、Joint 3rd International Conference on Soft Computing and Intelligent Systems and 7th International Symposium on advanced Intelligent Systems (SCIS&ISIS 2006)に



周氏（左）と陳氏

て、Session Best Presentation Awardを受賞しました。

周氏は「A Cooperative Auto-driving System Based on Fuzzy Instruction」、陳氏は「Soft Target Based Intelligent Controller for a System with Dynamic Restriction」と題する研究発表を行い、各セッションでの最も優秀な発表と評価され今回の受賞となりました。

システム情報工学研究科博士後期課程小山雄資氏，不破正仁氏が都市再生機構都市住宅技術研究所主催の設計競技において優秀賞に入選

システム情報工学研究科の渡辺 俊助教授，藤川昌樹助教授，吉田友彦講師指導の社会システム・マネジメント専攻博士後期課程小山雄資氏，不破正仁氏が都市再生機構都市住宅技術研究所主催の設計競技「求む！超・改造指南。昭和40年代の住宅はこう変わる」において優秀賞に入選しました。これは学生を対象として団地再生のアイデアと設計図面を募集したものに對して、「住み継がれる家・読み継がれる本」という提案名で応募したものです。

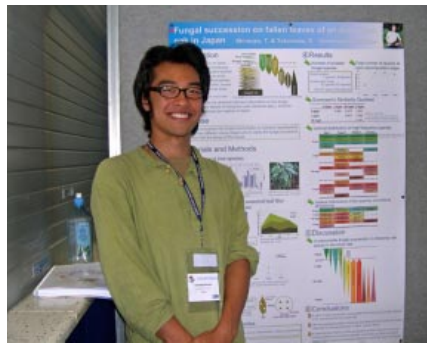


不破氏（左）と小山氏

これは学生を対象として団地再生のアイデアと設計図面を募集したものに對して、「住み継がれる家・読み継がれる本」という提案名で応募したものです。

徳増征二教授指導の生命環境科学研究科博士後期課程1年白水貴氏が第8回国際菌学会議のポスター賞を受賞

徳増征二教授（生命環境科学研究科構造生物科学専攻）指導の白水貴氏（生命環境科学研究科構造生物科学専攻博士後期課程1年）は、オーストラリアのケアンズ市で8月21～25日にかけて開催された第8回国際菌学会議で、学生を対象としたポスター賞を受賞しました。受賞研究は修士論文をまとめた「シラカシ落葉上の菌類遷移」で、生物多様性および生物保全の分野で優れた研究と認められ授与されました。



白水氏の研究は、本邦に自生する常緑カシの落葉分解に関与する菌類の遷移を明らかにし、針葉樹や落葉広葉樹のそれと比較してその特徴を明らかにした点が高く評価されました。

川口孝泰教授指導の人間総合科学研究科博士課程1年の佐藤政枝氏が平成16年度日本看護研究学会奨学研究を受賞

川口孝泰教授（人間総合科学研究科，社会環境医学専攻）指導の佐藤政枝氏（人間総合科学研究科社会環境医学専攻博士課程1年）は、8月24～25日に別府市で開催された，第32回日本看護研究学会学術集会で1年間の研究成果（人工股関節全置換術後患者のQOLを阻害する住環境要因の検討）を発表し，山口桂子理事長より表彰されました。



奨学研究は、日本看護研究学会が優秀な看護学研究者の育成のために、研究費用の一部を贈与し、研究成果により看護学の発展に寄与することを目的として、年度1名に対して授与されるものです。

制定された法人規則等一覧

平成18年8月に制定された次の法人規則等の全文については、筑波大学ホームページの「広報・公開」で閲覧できます。

国立大学法人筑波大学法人文書管理規程の一部を改正する法人規程

国立大学法人筑波大学知的財産権返還契約細則の一部を改正する法人細則

「速報つくば」について

「速報つくば」の次回（通巻1133号）の発行日は10月18日（水）です。原稿の提出は10月12日（木）の午前中までをお願いします。

学内行事、イベント情報及び教職員サークル活動などの記事も募集しています。

なお、「速報つくば」への寄稿に際しては、次の事項に留意ください。

できるだけ電子メールや電子メールへの添付ファイル等にしてください。

表彰関係記載項目については、受賞者氏名、所属、受賞名、簡単な賞の説明、受賞対象論文名等（掲載誌のページ等は省略願います。）とし、授賞式の日時、場所等については、必要がある場合等を除き、省略願います。

シンポジウム等の開催案内でシンポジウム等の概要を記す場合は、なるべく400字以内としてください。

簡潔に記載してください。

採用の原稿は、Web上に掲載しますので、了承願います。また、文教速報（官庁通信社発行）、文教ニュース（文教ニュース社発行）及びSTUDENTS（学生部発行）等からの情報提供依頼があった場合は、掲載情報（写真等を含む。）を提供しますので承知願います。

「速報つくば」のhtml版及びPDF版は、次のURLで閲覧できます。

<http://www.tsukuba.ac.jp/koho/booklets/index.html>

学内ニュース、写真の提供及び掲載内容への意見は広報課（TEL.2065，FAX.2014）へお願いします。

E-mail：sokuho@sakura.cc.tsukuba.ac.jp

電子メールで寄稿した方には、「速報つくば」より原稿受付等の返信メールを送りますので、確認ください。なお、返信メールが届かない場合は、広報課まで連絡いただきますようお願いいたします。